



2017夏・鉄道!

ブルートレインが山陰の海岸を駆け抜ける。遠いあの夏の日の思い出…。それは決して早い乗り物ではなく、先頭に立つ機関車も流線型のフォルムをしているわけでもなかった。

しかし、そこには、遥か彼方の土地への旅の香りが漂い、デザインの奇抜さや所要時間の短さを競う今の時代の基準とはまた別の、「かっこよさ」があった。そんなブルートレインの寝台に寝っ転がって、またいつか、どこまでも続く青い海を、見てみたい。

トワイライトエクスプレス 三見-玉江

会員 五反 章裕 (63期)